

令和3年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 上津役 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

教科に関する調査(国語, 算数)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

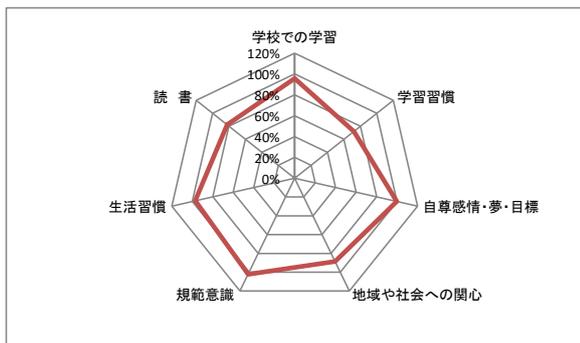
(1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.8	63	11.0	69
全国	9.1	65	11.2	70

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	平均正答率よりわずかに下回っている。書く、話す、聞く力のさらなる定着が課題である。また、文章の叙述に即して読むことに対して課題が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	知能及び技能は全国平均と同じであり、漢字や語句の習得はよくできているといえる。	
	努力が必要な問題	文章を詳しく書き直すところは平均を下回っており、文章表現力の向上が必要である。	
算数	全体的な傾向や特徴など	平均正答率よりわずかに下回っている。公式を用いて計算することはできている。文章を読み取り、立式するなど、筋道を立てて考える力が課題である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	速さ・道のり・時間のそれぞれを求める公式をよく理解し、立式、解答することができた。	
	努力が必要な問題	場面から数量の関係をとらえることが十分にできていないので、筋道を立てて考える力の向上が課題である。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析	
・「家で自分で計画を立てて勉強をしています」と答えた児童の割合は半数以上で、進んで学習に取り組む姿勢ができている。	
・起床・就寝時間等の生活リズムが全国と比べて安定している。また、テレビやスマホの使用時間が4時間以上の児童の割合は全国より少ない。	
・休日の1日当たりの学習時間が全国平均より少なく、全くしないという回答が多い。	
・「将来の夢や目標を持っている」と答えた児童の割合は全国と同じだが、「当てはまらない」の回答が全国よりも多い。どんな大人になってどのような生活を送るのか、子どもたちなりの具体的な将来像が持てるよう、教育活動の中でも取り組みが必要である。	

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

文章表現力をつけるため、授業の中に自分で考えてノートに書く時間を取る。また、なぜそう考えたのか、理由についても発言を求めたり記述する時間をつくらして、考察する時間の充実を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

家庭での学習習慣の大切さを、長期の休みの前にプリントや懇談会等で保護者に伝え、休日の学習時間の増加を図る。